



産卵のシーンを迎え、100個以上の卵を産んだアカウミガメ
4日未明、糸満市

暗闇で命のドラマ 糸満市の海岸

読ん
でる
NIE

【糸満】ウミガメの産卵シーズンを迎えた中、4日未明、糸満市の海岸で2匹のアカウミガメが産卵をした。2匹のウミガメが同じ砂浜で同じ時間帯に産卵するのは、年に一度あるかないかというほど珍しいという。それぞれ、午前2時〜3時半にかけて海岸に上陸。波の音が響き渡る暗闇の中、大きき約4寸のピンポン玉のような卵を計262個産み落とし、明け方近くの海へ帰って行った。卵は2カ月後にふ化する。

この海岸で長年、ウミガメの産卵を保護する活動をしている小林茂夫さん(71)によると、この日訪れた2匹のうち、1匹はこの海岸で初めて産卵、2匹目は2011年5月に一度産卵しているという。甲羅の長さは、それぞれ約90センチ。1時間はかけて産卵をした。アカウミガメの産卵シーズンは4〜6月。小林さんは「個体によって癖があり、2匹とも予定日より若干早れたことで、たまに産卵時期が合致した」と説明した。

■動画